

大和町農地利用最適化推進委員の推薦及び応募の状況(4月24日現在)

1 個人による推薦

(届出順)

番号	推薦を受けた者							推薦をする者						
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業者 等の該当の 有無	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	氏名	年齢	性別	職業	推薦する理由	農業委員への 推薦・応募
5	赤間 演	59	男	農業法人役員		営農類型 水稲 自作地 352.7a 借地 3,049.4a	有	近年、農業従事者の高齢化・後継者不足等により遊休農地の増加が問題視されていますが、遊休農地に合った作物の栽培で復元又は貸農園などを農地中間管理機構を通じて、農地の増加が抑えられないでしょうか。担い手の対策としては、新規就農者と担い手の確保が求められると思います。営農組織や農業法人への農地集積が見込まれますが、担い手に負担がかからないようにスマート農業又ドローン作業を取り入れた、環境をつくり就農者への支援も必要だと思えます。	石垣 敏行 斎 豊 石垣 敏行	71 74 68	男 男 男	農業 会社員 会社役員	被推薦者は、農業法人を設立し、地域農業の中核として経営規模を拡大し、現在では集落内の大部分の農地を集約し、他地域にも展開を図るなど今後の地域農業にとっては不可欠な存在となっております。一方地域内組織の役員としても活動され、とりわけ農業に関する部分では地域のリーダーとして活躍されており大和町農地利用最適化推進委員として推薦するものです。	無
6	桜井 忠一	62	男	農業		営農類型 水稲 自作地 320a	無	遊休農地の発生防止については、農業従事に対する魅力不足により農業を継ぐ者も減り、結果、農業従事者の高齢化、そして後継者の不足、担い手不足は当地域でも深刻な問題となっています。昨今は米価格高騰でも物価高騰等により個人農業では厳しいのが現状です。今後は農地の集積をして、農業法人、会社設立等で作業効率を上げ、生産性向上で安定した農業経営を行う事が必要。儲かる農業経営をしていけば、若い人達も興味をもち、自ずと担い手も増えていくと考えます。	藤江 昭夫 犬飼 榮作 安海 正	73 73 69	男 男 男	農業 建築業 農業	大和町落合地区の数少ない農業後継者の一人で農業に対する意欲もあり、今後、広域的な農業法人立ち上げにも積極的に参加する意思もあり、農地利用最適化推進委員として適任と思料される。	無

番号	推薦を受けた者							推薦をする者					
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業者 等の該当の 有無	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	氏名	年齢	性別	職業	推薦する理由
8	沼田 孝行	68	男	農業		営農類型 水稲 自作地 350a 借地 300a	無	遊休農地の発生防止や農業の担い手対策として、企業参入のメガファームや大規模協業法人化を進める人がいますが、素直に納得できない。 地域の農地の中の水路や農道を維持するためには、地域内の農家全員の協力が必要だと思う。地域内に10ha規模の家族(親戚)経営の専業農家を、10戸あたり、1戸の割合で育成する事のほうが現実的であり、その専業農家を中心となり、兼業農家の協力を得て行けば、地域を維持して行けると考えます。又、経営の安定の為に、米価の価格補償が必要です。収穫が近づいてから価格が決定するのでは、再生産が健全に実施する事が出来ない。出来る事であれば、生産の計画の段階で、米の概算価格が提示されることを願う。そうすれば、農家自体も栽培方法や資機材の逆算により、必要原価の確定が出来ると考えます。	高橋 勝彦 73 男 農業 門間 浩宇 70 男 農業 鈴木 稔 74 男 農業			沼田氏は、長年に亘り、地域において農業に従事しており、地域農業に貢献してきました。特に農業経営の改善や新たな技術の導入を積極的に進め、地域農業や若手育成にも多大な影響を与えております。また、沼田氏は、地域活動にも積極的に参加し、地域発展にも寄与してくれております。農地利用最適化推進委員としての職責を果たすために、必要な視野と経験を十分に備えていると確認しております。農業委員会の役割は、農業政策の推進や農業者の相談・支援や地域農業の課題解決に大きな影響を与える重要な職務であり、沼田氏はその能力と情熱でこれらの課題解決に対して、確実に貢献できる人物であり、推薦するものであります。	無
10	小笠原 仁	72	男	農業	農地利用最適化 推進委員 令和5年7月20日 ～	営農類型 水稲 自作地 212a	無	担い手不足は、地域最大の課題であり、多くの地域で問題となっています。簡単に解決する問題ではありませんが、今後も地域で対応策を検討する必要があります。田畑に行く際に、周りの農地の耕作を見て、見守りを続けたいと思っています。	早坂 辰男 70 男 無職 鶴橋 健市 75 男 農業 佐藤 修 75 男 農業			問題点や課題に対して、解決までやり遂げる強い責任感の持ち主であり、周囲と連携し物事を進める事ができる協調性や積極性を備えた人物であり、最適任者と考えます。	無
13	川島 克久	64	男	農業	大和町土地改良 区 理事 令和6年11月～	営農類型 水稲 自作地 314.9a 借地 99.7a	有	地域内でも高齢者や病気等で農作業が出来なくなったり、又は後継者不足で遊休農地が出ないよう、地域全体で考えて行きたいと思っています。	高橋 俊一 68 男 農業 宮澤 胞夫 73 男 農業 高橋 庄一 67 男 農業			この度、農地利用最適化推進委員に川島克久様を推薦いたします。川島さんは多面的機能支払交付金活動組織である「環境ネットワーク大崎」の会計、大和町土地改良区理事、大崎営農生産組合幹事他を務め、各組織を熟知し活動してきたスキルを今回の最適化推進委員になり、農業委員会や農地法などの内容を理解し、今後の農業に活かして頂きたく推薦いたしました。	無

番号	推薦を受けた者							推薦をする者						
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業者 等の該当の 有無	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	氏名	年齢	性別	職業	推薦する理由	農業委員への 推薦・応募
14	蜂谷 俊一	65	男	農業		営農類型 水稲 自作地 91.9a 借地 7a	無	<p>遊休農地の発生について、小規模兼業農家の自分の立場から考えると、サラリーマン時代は、現役の父母プラスαで行ってきた現状がある。父が亡くなってからは、自分が段取り、作業もメインで実施することとなった。小規模兼業農家は、農業収入では暮らせず、サラリーからの補填により運営してきているのが現状であると思う。</p> <p>現役終了後年金だけでは補填できないことから、法人・担い手へ受け入れして頂く。</p> <p>法人・担い手でも条件の良い耕作地であれば、受け入れ可能と思うが、中山間地や、農業インフラの不利地などであれば、受け入れて頂くことはかなわない。そのことから、遊休農地となると思う。この「負のスパイラル」にならない様、皆様と協力し現状の美田を後世に引き継げるよう行っていきたい。</p> <p>現在の担い手対策は、国等の施策、規模拡大や法人化することを目的化しているのではと思われる。それでは、担い手として頑張っている方と、担い手に期待する集落とではギャップがあるものと思う。各地区での現状も踏まえ、そのギャップを埋められるよう行っていきたい。</p>	佐々木 宏一 相澤 秀一 菅原 敏男	67 66 77	男 男 男	農業 農業 農業	地域の実状を十分把握し、地区民からの信頼も厚く、適任であると推薦します。	無

大和町農地利用最適化推進委員の推薦及び応募の状況(4月24日現在)

2 法人・団体による推薦

(届出順)

番号	推薦を受けた者								推薦をする者						
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業 者等の該 当の有無	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	法人・団体等 の名称及び 代表者氏名	目的	構成員 の人数	構成員たる資 格	その他の当該推薦 をする者の性格を 明らかにする事項	推薦する理由	農業委員 への推 薦・応募
	法人・団体による推薦はありません。														

大和町農地利用最適化推進委員の推薦及び応募の状況(4月9日現在)

3 個人による応募

(届出順)

番号	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業者等の該当の有無	応募の理由	遊休農地の発生防止や農業の担い手対策への考え	農業委員への推薦・応募
1	若生 昇	81	男	無職			無	行政区長として約18年程やってますが農地の耕作してもよい農地の耕作地の促進と担い手対策との必要性との考えから応募しました。	遊休農地の発生防止や耕作地であって耕作してよい農地の活用促進	無
2	浅野 秀昭	71	男	団体職員	農地利用最適化推進委員 令和5年7月20日～	営農類型 水稻 耕作面積 自作地 51.7a	無	大和町の農業や農地を守るため遊休農地対策、農地の集約化等を実践し地区を代表し活動を行います。	昭和30年代～40年代にかけ、国策により野山を切り拓いた土地が現在遊休農地として散見されます。元々野山ですので、その当時の姿に戻す事が最大の発生防止です。	無
3	佐藤 久欣	67	男	農業	農地利用最適化推進委員 令和5年7月20日～ あさひな農業協同組合 理事 平成28年6月～令和元年6月30日 認定農業者 平成30年～	営農類型 水稻 露地野菜 耕作面積 自作地 270a 借入地 500a	有	私が生活するところは多種多様な企業が混在する地区であり最終処分場の営業がきまった所でもある、良くも悪くも後生(後世)に繋ぐ使命を受け取った身としては農地や農業のあり方を安全且つ合理的に考え維持し未来に繋ぐ事が求められる、何を見、何を考え何を次世代に受けわたすかは、その人に委ねられるが、受けた私は最前線で見守る事、考える事が大事と考え応募しました。	農地を守る事、農家を継ぐ事を考えた場合、必ずぶつかる壁は農地の利用方法である。経営として成り立つには作物の選択と交付金の有無、これをまちがえたと遊休農地が増すことになるし、やる気も当然なくなる担い手も減る。でもやり方一つで変わる、数年先を読むことで目標地点がきまる。この農地に何を植え何に力を入れるかそれを達成するのに何が必要か利点欠点を学び共有し楽しみながら仲間を増し最後まで努力することだと思えます。	無

番号	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業 者等の該 当の有無	応募の理由	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	農業委員 への推薦・ 応募
4	高橋 久	73	男	農業	農地利用最適化推進委員 平成29年7月21日～ 農業振興地域整備促進協議会委員 令和元年10月1日～	営農類型 露地野菜 耕作面積 自作地 13.1a	有	現在吉田地区内で農地の集積を前提とした農地整備事業計画が進められている。現下の営農者の高齢化と後継者不足、農業資機材の高騰等から益々農業経営を維持していくことが困難な状況となっており、地域計画に基づく農業振興を推進していくことが重要と考え、推進委員に応募したものです。	農地集積の受け手となる担い手には規模拡大に伴って新たな設備等が必要となり、また新たな転作作物を取り入れたり、6次化に挑戦しようと考えている人もいるが、資金面で経営を圧迫したりすることも考えられ、これらに対する助成が必要と考える。また、一担い手、一法人に任せきりにするのではなく、地域でサポートする体制を作っていく必要がある。	無
7	小川 弘吉	65	男	会社員	農地利用最適化推進委員 平成29年7月21日～	営農類型 水稻 耕作面積 自作地 30a	無	農地利用最適化推進委員として活動していますが、農地の維持や継承は地域全体で考えて、農地と農業を守っていかないとダメだと思い、耕作放棄地や遊休農地の解消の手助けができればと思い応募しました。	地区全体で耕作放棄を解消し農地の活用を考え、5年後、10年後の農業を農地整備事業を通し農業振興を地域で徹底的に話し合いが必要です。地域づくりに農地利用最適化推進委員として、何らかの方策が取られるように微力ながらまとめ役として手助けをしていきたい。	無
9	堀籠 孝男	70	男	行政書士		・営農類型 水稻、露地野菜、花卉・植木	無	70才で農業経営者になりました。農業の高齢化、後継不足を勉強するため応募しました。	農地の集団化、経営の法人化等の推進。	有
11	千葉 正男	73	男	農業	農地利用最適化推進委員 令和2年7月20日～	営農類型 水稻 耕作面積 自作地 60a	無	推進委員として、農業関係を教えてもらいました。農業は課題が多いと思います。委員としては、次の人の世代が望ましいが、応募者が少ないと思い前職(建設業)の経験を生かして、もう一期だけ行動してみたいと思います。	国の規制(農地)をゆるやかにして行く。町や県では対応がむずかしい。何の産業でも同じだが、人口減が進む農業では土地問題がからんでいる。農地を一步でも改善して、皆さんで解決してゆく。	無

番号	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の概況 (過去の実績を含む)	認定農業 者等の該 当の有無	応募の理由	遊休農地の発生防止や 農業の担い手対策への考え	農業委員 への推薦・ 応募
12	熊谷 貴幸	52	男	農業	農地利用最適化推進委員 令和2年7月20日～	営農類型 水稲 露地野菜 施 設野菜 その他(農産加工) 耕作面積 自作地 600a 借入地 1300a	無	現在、農地利用最適化推進委員として活動しておりますが、継続して行政と地域の橋わたしとして、引き続き職務にあたっていきたいと思っております。	農業が持続的に経営していける政策を国、町、生産者、消費者が一体となり、考えていく必要がある。	無
15	佐藤 真由美	61	女	パート職員		・営農類型 水稲	無	利用されていない田畑が荒れている状況を見て、今後の農業の将来が不安になります。農業のやりがい、達成感を知ってもらいたい。何か力になれないかと思い応募しました。	家業として農業を行って来ましたが、次世代の子供達が仕事の関係で携われない状況があります。地元に残っている後継者も少なく、その方々の意欲と農地活用の大切さを後継者へ伝えて行ければと思います。	無